

障がい者の雇用・職域を拡大

矢崎グループでは、CSR方針において、多様性を尊重することを約束しており、すべての従業員が能力や適性を活かしていきいきと働ける職場環境の整備に努めています。

障がい者の雇用・促進については、それぞれの障がいに対応した職場環境を整備するとともに、作業の標準化や職場でのフォローアップ体制の強化を図っています。2018年度は、新たな採用人員を含め290名^{*}を雇用し、障がい者の雇用率は2.38%^{*}となっています。

特例子会社である矢崎ビジネスサポート(株)(静岡県裾野市)では、障がいをもつ28名の従業員を雇用しており、主に福利厚生施設の管理や清掃、廃棄物の一括管理業務などを担っています。また、就労を継続できるように企業内ジョブコーチや職業生活相談員などの有資格者を配置・育成し、支援体制を強化しています。

^{*}「障害者雇用促進法」に基づいて算出した矢崎総業(株)、矢崎計器(株)、矢崎部品(株)、矢崎エナジーシステム(株)および矢崎ビジネスサポート(株)の合算値

TOPICS

静岡県特例子会社連絡会

2016年に障がい者の就労と雇用の充実を図るため、特例子会社相互の情報交換、知識経験の共有ならびに、障がい者雇用を予定している企業への支援を目的に「静岡県特例子会社連絡会」が設立され、矢崎ビジネスサポート(株)も会の趣旨に賛同し、設立当初から加入しています。2018年には幹事会社5社のうちの1社となり、静岡県の障がい者雇用促進施策検討メンバーとして活動を始めました。これからも幹事会社として参画企業30社にとって有益な制度答申などの役割を果たします。

静岡障害者技能競技大会

2018年6月に、障がい者が培った技能を競う「静岡障害者技能競技大会」が開催され、矢崎ビジネスサポート(株)で働く障がいのある従業員1名が「オフィスアシスタント部門」に参加しました。各企業や特別支援学校から20名が参加したなか、3位の優良賞を受賞しました。

健康経営の推進

基本的な考え方

矢崎グループ^{*}では、「従業員が健康であること」を企業風土として定着させることをめざし、従業員の独自性/主体性を尊重しながら会社と保険者(健康保険組合)が連携を図り、フィジカル・メンタルの健康施策を実施しています。

その結果、矢崎グループは経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人」大規模法人部門(ホワイト500)に2018年、2019年と2年連続で認定されました。今後も健康経営を推進し、従業員の健康維持・増進に努めます。

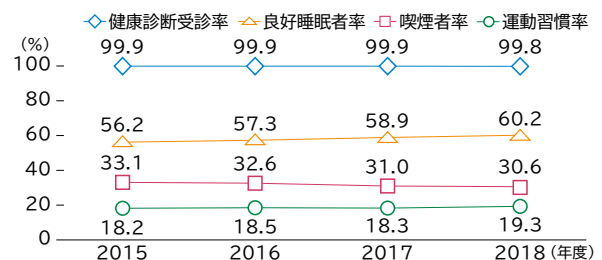
^{*}矢崎総業(株)、矢崎計器(株)、矢崎部品(株)、矢崎エナジーシステム(株)

心と体の健康づくり

矢崎グループは、フィジカルヘルスの基本施策である定期健康診断の100%受診を徹底しています。また、ハイリスク者に対して再検査の受診勧奨および再検査結果の回収に努め、軽度高血圧症の従業員から希望者を募り生活改善プログラムを実施しています。さらに、喫煙対策にも積極的に取り組み、受動喫煙防止活動を進めながら、喫煙率の低減もめざしています。

メンタルヘルスの施策では、セルフケアを推進するためのストレスチェックを、労働安全衛生法の義務化に先駆け、2009年から実施しています。ストレスチェックの結果、ストレスの高い従業員に対しては看護職が積極的に健康相談を行っています。さらに、部署単位で職場改善に取り組むため、オリジナルの職場改善計画書に基づきコミュニケーションの活性化を図ることで、メンタルヘルス不調の予防に努めています。

健康管理に関する状況



健康施策への主な取り組み

活動項目	実施内容
生活習慣病改善プログラム	軽度高血圧症の従業員から希望者を募り、運動プログラムや食事指導を実施して、高血圧症の未然予防に努めています。順次、実施事業所を拡大中です。
昼食の費用補助	食堂の有無に関わらず昼食の費用を補助し、きちんと食事を摂ることによる身体の健康づくりを推奨しています。
ストレスチェック職場改善	ストレスチェックの結果、課題の多い部署に対してオリジナルの職場改善計画書を使用して、改善を図っています。また、経年観察により、職場改善の効果を確認し、メンタル不調者発生予防に努めています。
受動喫煙防止活動	喫煙者・非喫煙者両者の意見を集約しながら、受動喫煙防止活動を実施しています。とくに5月31日の世界禁煙デーには、グループ全体で受動喫煙防止に取り組んでいます。

ウェルネス推進プロジェクト

従業員が健康な生き方・働き方を身につけ、育むことができる文化の形成を目的として「ウェルネス推進プロジェクト」を立ち上げ、さまざまなプログラムを実施しています。

2018年度は、新たに職場のコミュニケーションを高める研修として（一社）ウェルビーイングコミュニケーションラボラトリーのおおばやし先生を招き、「Cx3 BOOSTER」（シースリーブースター）※を活用した、楽しみながらチームの一体感を高めるユニークな研修を開始しました。参加者からは「メンバーとの距離が近くなった」、「あの人の意外な一面を知った」などの感想が聞かれました。

ウェルネス推進プロジェクトでは、今後も従業員の健康と働きがいと両立する新たな取り組みにチャレンジします。

※メンバーの個性を引き出し、チームの協働力や創造力を高める、ゲーム感覚のコミュニケーションツール

海外勤務者の健康管理

海外出向者は、医療面・衛生面・食文化など、日本とは異なる環境で長期間生活をしなくてはならないため、国内と同等以上の体調管理を実施しています。海外出向から帰任までの間、年1回人間ドックを健康診断として実施し、海外産業医アドバイスのもと、出向前よりも健康になって帰任できることを目標にしています。また、メンタルヘルスにおいても年1回のメンタルチェックを通じて体調の変化を早期に発見し、必要に応じて海外産業医による体調確認を実施しています。

さらに、海外出向者専用の24時間相談できる窓口を設置し、どの国からでも時間を気にすることなく相談ができる環境を整えています。

TOPICS

ウェルネスカスタマイズ研修

「ストレスチェックの数値が高い」、「コミュニケーションを深めたい」など、職場のさまざまな問題・課題に関する相談が増え、それぞれの職場の課題にあわせた支援の必要性が高まっていました。

そこで2018年度から、健康的な働き方に関する職場の問題・課題について、ウェルネス推進プロジェクトと従業員が一緒になって考え、最適な内容に組み立てるカスタマイズ研修を開始しました。

2018年度は11回開催しました。



研修の様子